

平成30年度
香川県議会南米訪問

報告書

平成30年7月17日~24日

アルゼンチン共和国、ブラジル共和国

1 訪問目的

アルゼンチン県人移住100周年記念式典、ブラジル日本移民110周年記念式典及びブラジル香川県人会との懇親会等に出席し、祝意を表するとともに、懇談を通して移住者や県人会との友好親善関係を図る。

2 訪問場所

アルゼンチン共和国、ブラジル共和国

3 訪問期間

平成30年7月17日（火）～ 7月24日（火）までの8日間

4 訪問者

五所野尾 恭一

随行職員

香川県議会事務局 政務調査課 副主幹 鈴木 孝紀

5 日程

	月日	地名	時刻	内容
1	7/17 (火)	香川県 関西空港	17:00 21:00 23:30	香川県 発 関西空港 着 関西空港 発 【機中 泊】
2	7/18 (水)	ドバイ アルゼンチン リオデジャネイロ ブラジル ブエノスアイレス	3:55 7:15 14:10 16:10 19:15	ドバイ 着 ドバイ 発 リオデジャネイロ 着 リオデジャネイロ 発 ブエノスアイレス・エセイサ空港 着 【ブエノスアイレス 泊】
3	7/19 (木)	アルゼンチン ブエノスアイレス	10:25 13:30 14:40 15:30 19:40	JICA アルゼンチン事務所訪問 ジェットロ・ブエノスアイレス事務所訪問 市内視察 在アルゼンチン日本国大使館訪問 アルゼンチン県人移住 100 周年記念式典 【ブエノスアイレス 泊】
4	7/20 (金)	アルゼンチン ブエノスアイレス ブラジル サンパウロ	13:55 16:40	ブエノスアイレス・エセイサ空港 発 サンパウロ・グアルーリョス空港 着 【サンパウロ 泊】
5	7/21 (土)	ブラジル サンパウロ	9:25 11:50 16:30 18:00	開拓先没者慰霊碑参拝 ブラジル日本移民 110 周年記念式典 ジャパン・ハウスサンパウロ訪問 ブラジル香川県人会との懇親会 【サンパウロ 泊】
6	7/22 (日)	ブラジル サンパウロ	11:00 14:30 16:00 19:00	香川県人会館訪問 ブラジル日本移民資料館訪問 東洋人街（リベルダーデ）視察 サンパウロ・グアルーリョス空港 着 【機中 泊】
7	7/23 (月)	ブラジル サンパウロ ドバイ	1:25 22:55	サンパウロ・グアルーリョス空港 発 ドバイ 着 【機中 泊】
8	7/24 (水)	ドバイ 関西空港 香川県	3:40 18:10 19:00 21:30	ドバイ 発 関西空港 着 関西空港 発 香川県 着

6 行事及び訪問等の内容

(1) アルゼンチン J I C A 事務所訪問

7月19日(木) 10:25~11:30

三田村所長からアルゼンチンにおける J I C A の取組みについて、次のとおり説明を受けた。

1886年にアルゼンチンへ日本人移住者第一号が到着し、以後、コーヒーや胡椒等で一獲千金を目指し、5,838人の日本人が移住した。

アルゼンチンにおける J I C A の始まりは、日本人移住者を支援する機関として1957年に事務所が設置されたことに遡る。

現在の日系人支援事業は、まず日系人人材育成として技術研修、日本文化体験・習得、若手日系人向け(中・高・大学生、次世代リーダー)があるが、これは日系人のアイデンティティに目覚めてもらうことを目標としている。次に日系社会ボランティアの派遣として日本語教育、ソーシャルワーカー、日本文化(日本舞踊、着付け、習字、生け花、剣道)、スポーツ(野球、柔道、剣道、卓球)があるが、教える側・教わる側ともにアルゼンチン人が増えている。

これからの日系社会支援は、これまで日系社会が築いた信頼を継承し、発展させるとともに未来を担う若い日系社会のリーダー達との絆を強化することであり、開かれた日系社会を作ることである。

J I C A 事業は、人材育成、産業開発、農業開発、環境と様々な支援を行っており、現在は日本式経営手法を導入し、アルゼンチン中小企業の品質、生産性、競争力の強化を図ることを目的とした「カイゼン・プロジェクト」を開始したところである。(トヨタ、ソニーを手本としている)

【意見交換等】

五所野尾議員：これまでに様々な支援を行ってきているが、これからも日本の支援は必要か。

J I C A : 技術支援のほか、カイゼン・プロジェクトや地域開発(一村一品プロジェクト)において、ノウハウなどの知的支援は引き続き必要である。



(2) ジェトロ・ブエノスアイレス事務所訪問

7月19日(木) 13:30~14:30

紀井所長からアルゼンチンにおけるジェトロの取組みとアルゼンチンの現状について、次のとおり説明を受けた。

アルゼンチンの現状は、これまで何度もデフォルト(債務不履行)を起こし、国民もまたかと慣れたものである。

前政権は、政策として輸出する時に税金を高くする閉鎖経済であり、ペソからドルに換えにくくしたため、車や不動産を買う内部消費であった。

マクリ大統領の就任後、財政規律回復・債務返済による国際金融界からの信任の獲得、送金規制緩和、輸入規制緩和等に着手した。しかし、インフレは収まっておらず、本年6月のインフレ率が前月比3.7%と上昇傾向が止まらず、政策金利も40%と高い。ドル・ペソ為替レートが安定していないこともあり、防衛策としてドルに換えて保有している者が多い。

マクリ政権下では、日系企業が人を増やし始め、輸入販売で何かできないかと模索している。また、2017年には新規参入した日系企業が0社であったが、2018年は5~6社と少しずつポジティブになっているが、しばらくはしんどい時期が続くと見込まれる。

アルゼンチン政府は外からお金を入れる方策として、IMFから500億ドルの融資を受け入れ、状況を落ち着かせようとしている。



(3) ブエノスアイレス市内視察(5月広場、大聖堂及びその周辺地域)

7月19日(木) 14:40~15:00

1827年に完成した大聖堂はネオ・クラシック風の建築物であり、内部には壮麗な装飾が施されている。この地域は古くから開けた地域で、ブエノスアイレスの中心部となっている。地震がないということもあり、古いヨーロッパ風の街並みと現代のビル建築が融合し、独特の雰囲気醸し出している。



(4) 在アルゼンチン日本国大使館訪問

7月19日(木) 15:30~16:20

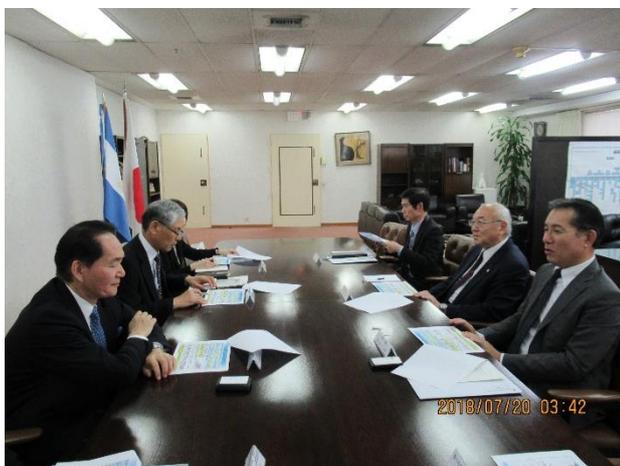
福嶋特命全権大使からアルゼンチンの現状について、次のとおり説明を受けた。

何度もデフォルトを起こし破綻しているが、GDP:5,417億ドル(2016年、IMF)と世界第21位である。

豊富な食料資源を基に外資を得ている。大豆(粒世界第3位、油第1位、粕第1位)、とうもろこし(世界第3位)、小麦(世界第9位)。牛肉の大生産地。

近年は、アルゼンチンに対する日系企業の関心も高まり、2015年は進出日系企業が51社であったが、2017年には100社と倍増している。

最近のアルゼンチン情勢は、前左派政権時代には15年間鎖国のような状態が続き、特定国のみとの極度なイデオロギー外交であったが、2015年12月、「変革」を主張する中道右派のマクリ政権が誕生し、開国、国の正常化、経済の持続的成長に向けて大きく方針転換を行った。急激な改革に国民の間で不満も若干蓄積する中、本年4月以降、急激な通貨(ペソ)安が発生したが、IMFからの資金支援を受けつつ改革努力を継続中である。(急な改革の例として、公共料金の値上げ:電車賃20円から60円、光熱水費約3倍など)



(5) アルゼンチン県人移住100周年記念式典

7月19日(木) 19:40~22:00

記念式典に出席し、関係者と懇親を図るとともにアルゼンチンにおける日系人の生活や日本に対する思いなど意見交換を行った。

憲法記念日知事表彰、祝金贈呈、補助金贈呈、記念品贈呈を行ったほか、元海外技術研修員等による発表があった。

元研修員の参加もあったが、最近では日系人だけではなく非日系人の研修員も多い。それは日本文化に対する関心の高まりの現れであり、世界に日本文化を発信していく良い機会であると考えている。ただ、今回の参加者(日系人)から聞こえた意見として日系人だけではなく、非日系人も研修員として出すのには違和感を覚えるというものがあつた。この方は息子さん(20代)を研修員として送り出したいという思いもあるようであつたので、県人会会長に研修事業の説明をお願いした。また、県の行っている研修制度について、継続を望む意見が出された。その後、参加者との活発な意見交換を行うなど友好的に懇親会を終えた。



(6) ブラジル日本移民開拓先没者慰霊碑参拝

7月21日(土) 9:25~9:55

ブラジルサンパウロ市のイビラプエラ公園内にある慰霊碑に参拝した。

1975年に建てられて以後、ブラジルの土と化した多くの日本移民先駆者の霊を祭る慰霊碑は、多くの参拝者が訪れ、今やブラジルの日本移民の心情的拠点となっている。

当公園は、年間1200万人もの来園者が訪れ、レジャーを楽しむ施設である。参拝日当日も多くの来園者が散歩、ジョギング、サイクリングを楽しむ姿が見られた。



(7) ブラジル日本移民110周年記念式典

7月21日(土) 11:50~15:30

サンパウロ市で開催された「ブラジル日本移民110周年記念式典」に参列した。ブラジルへの日本人移住から今年で110周年を迎え、秋篠宮家の長女眞子さまも出席し、あいさつされた。

式典が行われた会場では、日本祭り(フェスティバル・ド・ジャポン)が開催されており、3日間の開催期間中に30万人が訪れる世界最大規模の日本紹

イベントである。会場内では各都道府県人会が日本食のブースを担当し、ご当地名物の販売も行われている。ブラジル香川県人会の婦人部、青年部は、毎年さぬきうどんを販売している。提供しているさぬきうどんの材料は、香川から輸入しているとのことで本格的なものであった。

会場内を見渡すと日系人だけではなく、多くの人たちが日本の文化に触れ楽しむ姿が印象的であった。こういう場を利用した香川県の情報発信も非常に有効な手段であると感じられた。



(8) ジャパン・ハウス サンパウロ訪問

7月21日(土) 16:30~17:40

平成29年5月に開館したジャパン・ハウス サンパウロは、外務省が設置した「オールジャパン」の対外発信拠点である。

訪問当日は、1階で無印良品のポップストア、2階では「香りと味」展が行われ、日本を知りたい現地の人で賑わっていた。日本に関する様々な情報が入手でき、カフェ・レストラン等も設置された日本のおもてなしを体現できる施設である。

【意見交換等】

香川県：香川県では3年に一度、瀬戸内国際芸術祭を開催しているが、その特色は島や港でやることであり、魅力があると考えます。都市の中では、その魅力が半減する。

ジャパン・ハウス：名産品や工芸品を紹介しているが、美術館や博物館と違って体験型としている。

香川県：四国八十八箇所霊場と遍路道の世界遺産登録を目指している。スピリチュアルなもので欧米やブラジルからの遍路者が多く、ジャパン・ハウスで発信していただくのにピッタリくると思う。



(9) ブラジル香川県人会による歓迎夕食会

7月21日（土）18：00～20：00

関係者と懇親を図るとともにブラジルにおける日系人の生活や日本に対する思いなど意見交換を行った。

祝金贈呈、補助金贈呈、移住高齢者表彰、記念品贈呈を行ったほか、元海外技術研修員による発表があった。

元研修員の参加も多数あったが、香川県での学習した思い出や香川県民の優しさが懐かしく、また訪れたいなど友好的な意見が多く聞かれた。研修員は

目標が定まっております、それを達成するために香川で研修を受けるのだと熱い思いも伝わってきた。



(10) 南米香川県人会館視察

7月22日(日) 11:00~12:00

宿泊室45室、大ホール、体育館、会議室兼食堂などを備えた県人会館を視察した。訪問日には、武道館で剣道が行われており、素人目にも上手く見えたので、どこの選手か聞くとブラジルとチリの代表選手であった。ブラジルで剣道を本格的に行える施設は少なく、剣道の愛好家がよく利用しているとのこと。

【意見交換等】

県人会会長から、剣道のコーチを派遣してはどうかとの意見があった。

研修員について聞くと、香川県に行く研修員は、皆それぞれ夢を持っており、周りから進められる以上に、自身で香川県で学びたいという気持ちを持って赴いている。その分、目標や目的がはっきりしており、帰国してからもさらに勉強している。一人でも多くの者が香川県で学べるようにしてもらいたいとのこと。



(11) ブラジル日本移民資料館視察

7月22日（日）14：30～15：30

移民70周年祭の記念事業として1978年6月18日にオープンし、訪問日に改装が完成したばかりで、午前中には秋篠宮家の長女眞子さまが訪れていた。

7、8階の常設展示室は、日伯関係の始まりである「日伯修好通商航海条約」の写しや、笠戸丸の第1回移民に関する物品、1913年以降にコロノから独立農を目指す原始林開拓時代の生活や混合農業の様子、戦後の日系社会の変化や日系企業の進出、ブラジル社会における日系人の活躍などが取り上げられている。

9階は、「ブラジル日本移民110周年」「ブラジル日本移民資料館創立40周年」を記念して、「子供移民の生活」をテーマに特別展示会が開催されていた。

100年ほど前、出稼ぎのため海を渡った日本人は、ブラジルで大変な苦勞をしながらも日本人コミュニティを作り、日本の教育や文化を守り育みながら、頑張り、周囲の信頼を得てきた。今日では農業だけではなく、様々な職種に就き確固たる地位を築いている。これからも二国間の親善交流や発展のために貢献するものと確信した。



(12) 東洋人街視察

7月22日（日）16：00～17：00

地下鉄リベルダージ駅付近に在する東洋人街を視察した。

元々は日本人街と呼ばれていたが、その後、中国人や韓国人が増えてきて、2004年に東洋人街と改名された。しかし、依然として街並みは日本人街のころの面影が強く残っている。

日系のスーパー、ラーメン屋、牛丼屋など、日本食材や日本食を買える店が点在している。

訪れたのがちょうど日曜日だったので、焼きそば、たこ焼き、てんぷらなどの屋台が並ぶ「東洋市」が開かれており、大勢のブラジル人で賑わっていた。ここでも日本食ブームとなっているようで広場や路地の片隅で、焼きそばやてんぷらを美味しそうに頬張る姿が印象的であった。





7 成果と課題

今回のアルゼンチン、ブラジル訪問では、ブラジル日本移民110年記念式典やアルゼンチン県人移住100周年記念式典、また県人会懇親会などへの出席を通して、移住者や県人会との友好親善を深めるとともに県人会の現状や課題を把握することができた。

また、日本大使館やJICA現地事務所、ジェトロ現地事務所などの訪問を通して、南米両国の政治、経済情勢や日系人の活動状況などを直接聞くことができた。

まず、私が両国の訪問において感じたことは、現在県人会で活躍されている会長をはじめとする役員の方々には、日本語が堪能であるが、今後世代交代が進むにつれ日本語がたどたどしくなるというものである。それは日常生活の中で日本語ではなく、母国語を使っており、日本語に触れる機会が少なくなっていることが要因であろう。また、懇親会などの交流の中で、日本に興味を持ち、日本で学びたいという意思のある日系人はまだまだ多く存在していることが分かった。現在行われている研修制度を続けることにより、日本語を学び県民との交流の輪を広げ、帰国した後にも香川の良さを伝え、わが県との橋渡し役になってくれるものとする。

次に、現地での式典参加及び視察を通して、ブラジル人の日本文化への関心の高まりに驚かされた。ブラジル日本移民110周年記念式典が行われた会場で開催されていた「日本祭り」は、回を追うことに来場者が増し、規模がどんどん大きくなっているとのことであり、参加者は日系人だけではなくブラジル人の姿も多く、各ブースで日本食や買い物を楽しむ様子が見られた。とくに日本の漫画やアニメが人気であり、コスプレをした人も会場を歩いており、人気投票も行われている。来場者の多さや注目度の高さから、「日本祭り」は、香川県をPRする場に適していると思われ、キャラクターや漫画を使った宣伝効果が高いのではなかろうか。

これら訪問で得られたことは、県と両国及び両県人会との友好協力や県政に関する政策立案に大いに役立つものであった。